

非正規労働者の世界（２）～様々な雇用形態で働く人々とユニオン運動

ユニオン運動とは何か——首都圏青年ユニオンの活動から

河添 誠（首都圏青年ユニオン書記長）
松元 千枝（新聞ワーカーズユニオン委員長、
首都圏青年ユニオン非常勤専従）

1. 若年労働者の実態

- ・ 正規労働者——長時間労働・低処遇の正社員＝「なんちゃって正社員」「名ばかり正社員」の増加
例 SHOP99の「名ばかり店長」。
- ・ 非正規労働者——低賃金・不安定
＜就労＞→＜失業＞→＜半失業・半就労＞→＜就労＞のサイクル。
無国保・無年金。
- ・ 失業者——無収入・定収入・失業の長期化
無国保・無年金。

→労働基準法以下の労働条件の拡大。社会保障の網からの漏れ。

2. 労働基準法以下の労働条件の拡大とのたたかい

- ・ 団結権、団体交渉権の活用
- ・ 違法の4点セット
＜違法な解雇＞
＜残業代未払い＞
＜有給休暇がとれない＞
＜社会保険・雇用保険に未加入＞
→これらを団交で勝ち取る。
- ・ 参加型の団体交渉

3. 首都圏青年ユニオンのたたかひの勝利から何が見えるか？

- ・ すき家（株式会社ゼンショー）
——残業代未払いなどの裁判で勝利。
- ・ 洋麺屋五右衛門（日本レストランシステム株式会社）
——違法な「変形労働時間制」運用を認めさせ賃金未払いを是正させた。
- ・ グッドウィル
——違法派遣による廃業にともなう支店長の解雇と「名ばかり管理職」の未払い賃金を支払わせた。
- ・ 財団法人NHKサービスセンター
——10年以上にわたる派遣労働者の専門26業務偽装。派遣先のNHKサービスセンターと団交して定年まで働ける職で直接雇用を勝ち取る。

- ・ シッスルドッグスクール——犬の訓練士の「研修生」が労基法上の労働者であることを認めさせ、最低賃金を支払わせた。

→これらはすべて、労働基準法、労働者派遣法などの法律に違反しているケース。

法律に違反していても泣き寝入りしているのが大半の労働者。特に非正規労働者はあきらめてしまっている。

→「あきらめる必要はない」「たたかえば勝てる」

4. 労働運動の新たな発展

- ・ 視野を広げた社会的労働運動（社会運動ユニオニズム）の可能性。
 - 「年越し派遣村」の成功と衝撃。「よってたかって」方式。
 - 市民が労働運動の可能性を組み尽くすことが大切。
- ・ 社会保障運動を労働運動が正面から担う時代。
 - 安定した雇用と社会保障とを政府の責任でおこなわせることを権利として政府に求める運動の強化
 - 「新しい福祉国家」構想

5. 松元千枝さんの経験から

1995年	カリフォルニア州立大学イーストベイ校 (California State University at East Bay) 卒業
1996年～1999年	The Asahi Evening News 記者
2000年～2005年	International Herald Tribune/ The Asahi Shimbun (ヘラルド朝日) 記者
2002年	ヘラルド朝日労働組合結成
2005年～2009年	German Press Agency dpa (ドイツ通信社) 東京特派員
2009年～現在	フリーランス・ジャーナリスト、首都圏青年ユニオン非常勤専従、新聞ワーカーズユニオン委員長

<補足>今日、報告した論点についてさらに興味のある方は以下の雑誌記事・出版物を参照されたい。

- ①『世界』岩波書店 2008年2月号の「反・貧困を軸とした運動を——希望は連帯」(湯浅誠と河添誠の対談)
- ②『経済』新日本出版社 2008年2月号の座談会「若者の貧困問題にどう立ち向かうか」(湯浅誠・猪股正・河添誠)。
- ③貧困問題全体を理解するには、湯浅誠『貧困襲来』山吹書店 2007年7月刊が決定版である。
- ④反貧困ネットワークについては、宇都宮健児・猪股正・湯浅誠『もうガマンできない！ 広がる貧困——人間らしい生活を求めて』明石書店 2007年7月刊、宇都宮健児・湯浅誠編『反貧困の学校』明石書店 2008年10月刊、宇都宮健児・湯浅誠編『反貧困の学校<2> いま、“はたらく”があぶない』明石書店 2009年8月刊を読みたい。

- ⑤ ネットカフェ難民の実態とそれに対抗する運動については、水島宏明『ネットカフェ難民と貧困ニッポン』日本テレビ放送網株式会社 2007年12月刊がもっとも詳しい。
- ⑥ 反貧困運動の課題と現在については、湯浅誠『反貧困——「すべり台社会」からの脱出』岩波新書 2008年4月刊を読みたい。
- ⑦ 首都圏青年ユニオンの活動について首都圏青年ユニオン顧問弁護団の目から見たものとして、笹山尚人『人が壊れてゆく職場——自分を守るために何が必要か』光文社新書 2008年7月刊を参照されたい。
- ⑧ 反貧困の現場の最新情報を労働記者の立場からルポしたものとして、東海林智『貧困の現場』毎日新聞社 2008年8月刊を読みたい。なお、本著の巻末には、河添も含む対談が掲載されているので、あわせて読みたい。
- ⑨ 若者の労働と社会保障のあり方に必要な政策については、遠藤公嗣、河添誠、木下武男、後藤道夫、小谷野毅、今野晴貴、田端博邦、布川日佐史、本田由紀『労働、社会保障政策の転換を——反貧困への提言——』岩波ブックレット 2009年1月刊を読みたい。
- ⑩ 現代日本の「生きづらさ」については、湯浅誠・河添誠編著『「生きづらさ」の臨界——“溜め”のある社会へ』旬報社 2008年11月刊を読みたい。
- ⑪ 「年越し派遣村」の運動とその意味については、年越し派遣村実行委員会編『派遣村——国を動かした6日間』毎日新聞社 2009年3月刊を読みたい。
- ⑫ 『経済』新日本出版社 2009年3月号の対談「貧困化する若者とユニオンの力——「派遣切り」と立ち向かうために」（中西新太郎、河添誠の対談）
- ⑬ 「新しい福祉国家」については、後藤道夫・木下武男著『なぜ富と貧困は広がるのか（改訂版）』旬報社 2009年6月刊がわかりやすく書いている。さらに理論的に勉強したい方は、後藤道夫著『戦後思想ヘゲモニーの終焉と新福祉国家構想』旬報社 2006年11月刊を読みたい。
- ⑭ 憲法9条と25条との関係で戦後の社会運動をあとづけ、反貧困運動も位置付けている好著として、渡辺治著『憲法9条と25条・その力と可能性』かもがわ出版 2009年10月刊を読みたい。
- ⑮ 新政権の評価と運動のあり方については、渡辺治・二宮厚美・岡田知弘・後藤道夫『新自由主義か新福祉国家か——民主党政権下の日本の行方』旬報社 2009年12月の渡辺治論文が秀逸である。参照されたい。
- ⑯ 「新しい福祉国家」構想の姿を展望するために、社会保障憲章・社会保障基本法の制定が提起されている。研究者が集まり第一次草案を提起し意見を集約している。資料等の問い合わせ先は、「福祉国家と基本法研究会」（全労連 03-5842-5611、全日本民主医療機関連合会 03-5842-6451、東京社会保障推進協議会 03-5395-3165）。
- ⑰ 雇用と社会保障制度の現局面についての河添の見解については、河添誠「すべての若者に雇用と生活の保障を」（月刊『日本の科学者』2010年5月号 Vol.45 No.5 通巻508号、日本科学者会議編集・発行、発売：本の泉社）を参照されたい。